

## 平成27年・長野支部交流試合レポート

4月19日、松本市柔剣道場にて「平成27年・長野支部交流試合」が開催されました。今大会は型、組手の各部門に県内はもとより、他県からの参加者も含めて103名の選手がエントリーしました。また昨年につき、他流派からの参加もあり、緊張感ある熱のこもった戦いが繰り広げられました。

最初におこなわれた型の試合は、多くの試合で僅差の判定となり、出場する選手のレベルが上がってきていることをうかがわせました。

小学生低学年の型で優勝した佐當直紀選手は、足腰の強さを活かしてスピードと力強さを両立した演武を見せ、同じく一般の型の部で優勝した北澤厚志選手は、もの凄い目力で気迫のこもった演武を見せてくれました。また兄妹でそれぞれ中学生と小学生高学年の部を制した柿澤龍太郎選手とゆりあ選手は、二人とも高さスピードのある蹴りを活かした演武を見せてくれました。型で優勝したこの4名は組手の部でも優勝しており、日頃から藤原師範が言われている「組手が強い選手は、型もうまい」という言葉を、みごと実践する結果となりました。

組手の各部門でも幼年から一般上級の部まで、各道場での稽古の成果を発揮し熱い戦いが繰り広げられましたが、他流派がエントリーした部門では良い意味で非常に緊張感のある激しい試合となりました。今後お互いのレベル向上に良い刺激となるので、来年以降も多くの参加を期待します。

連覇を達成した佐當直紀、清水力、宮澤来夢選手や、昨年の準優勝から今年の優勝につなげた北澤厚志、柳澤稜選手は、日頃の稽古を地道に継続していることの結果であり、他の道場生に続ける事の大切さを教える形となりました。この中で女子セーフティーの部を制した宮澤来夢選手は、昨年につき全ての試合が他流派という緊張とプレッシャーの中での勝利でした。この経験を上位の大会でも活かしてもらいたいです。

2年ぶりの出場となった一般上級の部の原田燎選手は、惜しくも決勝で敗れはしましたが、鋭い上段への蹴り技は健在で、まだ十代と若くこれからの活躍を期待させる試合内容でした。

今回結果を残せなかった選手も、試合という非日常的な場に自分の身を置いたことで、普段の稽古では得られない貴重な経験をしたことと思います。ぜひこの経験をこれからの稽古に活かしていきましょう。

最後になりましたが、無事今大会が開催できましたことを、大会運営スタッフ並びに選手の応援に駆け付けてくださったご家族の皆様に感謝致します。

(長野支部広報)